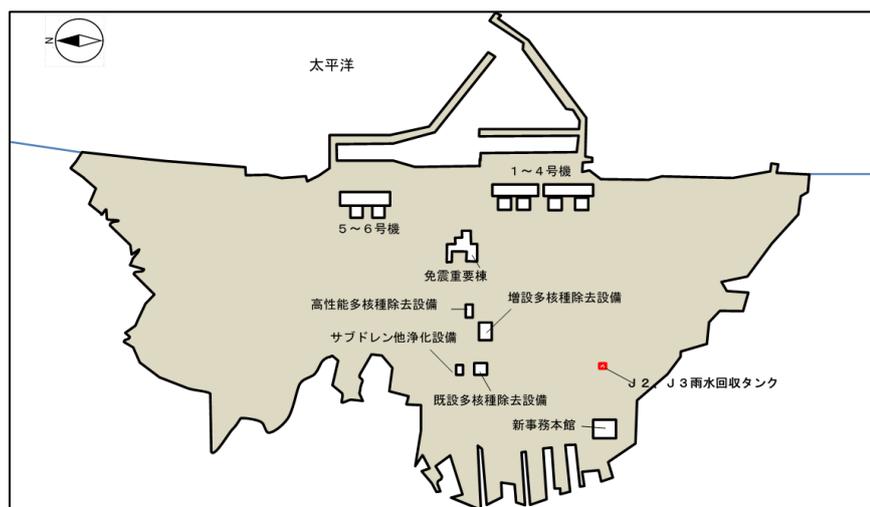


福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和3年12月22日（水）
- 2 確認箇所
新事務本館（机上説明）
J2、J3雨水回収タンク
- 3 確認項目
J3雨水回収タンクにおける分析前雨水の計画外散水事案の対応状況
- 4 確認結果の概要
タンクエリアの堰内に溜まった雨水は、雨水回収タンクに回収され放射能分析を行い散水基準を満たしていることを確認した後に計画的に散水されている。
11月29日に、散水基準を満たしていることが確認されているJ2雨水回収タンクの水を散水すべきところ、分析前のJ3雨水回収タンクの水を散水する事案が発生したことから、東京電力から事案の発生原因と再発防止対策を聴取するとともに現地の状況を確認した。（図1）（写真1）
(前回確認日：12月2日)
 - ・東京電力によると、作業員の誤認識により、J2雨水回収タンクの散水払出弁ではなくJ3雨水回収タンクの散水払出弁が開けられたものであり、本来は2名の作業員（作業班長と作業員）が、現場において手順書を基に対象の弁等を目視しながら操作を実施すべきところ、1名（作業班長）が現場を離れていたため作業員の誤操作に気付けなかったことが原因とのことであった。
 - ・東京電力では、再発防止対策として、以下の対策を講じている。
 - ☆雨水回収タンク散水払出弁の鍵を各タンク共通の鍵からタンク毎に専用の鍵に変更し、当直長が散水対象タンクのみ鍵を貸し出すことにした。
 - ☆雨水回収タンク散水払出弁の近傍に当該タンクの識別表示を取り付けて視認性を向上させた。
 - ☆免震重要棟等でも操作の実施状況を確認できるようにウェブカメラを取り付ける。（2022年度上期設置予定）
 - ☆社員や作業員に対して、ヒューマンエラー防止のための基本動作の重要性や作業の重要性に関する意識付けを継続的に実施し、現場に浸透しているかを定期的に確認していく。

- ・現地確認時、J 2 雨水回収タンクと J 3 雨水回収タンクの散水払出弁は「全閉」となっており、散水は行われていなかった。また、それぞれの散水払出弁の近傍にタンクの識別表示が取り付けられていた。（写真 2）
- ・なお、東京電力によると、11 月 29 日に誤って散水した J 3 雨水回収タンクの水（残水）について放射能分析を実施し、11 月 30 日に散水基準を満たしていることを確認したとのことであった。



(図 1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真 1)

J 2、J 3 雨水回収タンク概観

(北西側から撮影)



(写真 2 - 1)

J 2 雨水回収タンク散水払出弁の状況 (前回(12 月 2 日)東側から撮影)



(写真 2 - 2)

J 2 雨水回収タンク散水払出弁の状況 (今回(12 月 22 日)東側から撮影)



(写真2-3)
J3雨水回収タンク散水払出弁の状
況 (前回(12月2日)東側から撮影)



(写真2-4)
J3雨水回収タンク散水払出弁の状
況 (今回(12月22日)東側から撮影)

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。